

情報・システム研究機構 教育研究評議会（令和5年度第6回）議事要旨

日 時： 令和6年1月19日（金）15：30～17：30

形 式： 情報・システム研究機構会議室及びWeb会議

出席者：篠崎資志評議員、高木利久評議員、塚本恵評議員、永田敬評議員、
福井学評議員、BENTON Caroline F. 評議員、
喜連川優評議員（議長）、椿広計評議員、中村卓司評議員、小酒井克也評議員、
中野美由紀評議員、野木義史評議員、黒橋禎夫評議員、花岡文雄評議員、
仙波秀志評議員、中川健朗評議員、伏見信也評議員、荒木弘之評議員、
堤雅基評議員（極地研）、相澤彰子評議員（情報研）、川崎能典評議員（統数研）、
仁木宏典評議員（遺伝研）

オブザーバー：村上雅人監事

陪席者：本部事務局・研究所事務担当者

○議事に先立ち、議長より本会の成立要件の確認があった。

○議長より、令和5年度第5回議事要旨の確認が行われた。

議 題：

【審議事項】

（1）統計数理研究所における研究系の改組について

椿評議員より資料1-1～1-4に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり了承され、役員会にて審議することとした。

（意見概要）

○理念には賛同しているが、設置期間については学問の潮流等を踏まえて時限付きとするものか、あるいは研究所の意思として当面維持するものとして設置するのか。

→本件は、組織改革要求の枠組みにおいて高等研究センターを設置することとして認められており、それを具体化したもの。今後も順次拡充していく計画であり、その場合は本件のように組織運営規則の改正としてお諮りする予定である。

（2）第4期中期計画の変更について

椿評議員より資料2-1～2-4に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり了承され、役員会にて審議することとした。

【報告事項】

(1) 研究教育職員に係る人事異動等について

議長より資料3に基づき、研究教育職員に係る人事異動等について報告された。

(2) JSR株式会社との共同研究部門設置について（統計数理研究所）

椿評議員より資料4に基づき、JSR株式会社との共同研究部門設置について報告された。

○ ROISの新たな挑戦シリーズ 第2弾（国立遺伝学研究所）

花岡国立遺伝学研究所長より資料に基づき、研究所における取組み及び新たな挑戦等について発表された。

（意見概要）

○ARW(Automated Research Workflow)に関し、自律型の実験自動化技術について、例えばロボットにより pH 値をアジャストするといった取組みは非常に興味深く期待している。

→自動化により研究者の負担を軽減でき、実験効率が上がると考えている。実験そのものを自動化することも考えられ、共同利用機関としてこういうところにも投資しながら共有していきたい。

○企業との共同研究はどのような枠組みで実施しているか。また、共同研究1件あたりにつき研究費の受入額が平均100万円程度と読めるが、比較的小規模な案件が多いのか。

→例えば、先ほど説明したオーキシン/デグロン技術については製薬会社と共同研究を実施しており、研究費のほか、企業の方を研究員として受け入れる枠組みで実施している。また、現状では受入額が比較的小規模な共同研究が多い。単に件数を増やすと様々な負担が増える側面もあるため、今後は効果的に受入規模を拡大できるようなモデルを検討していきたいと考えている。

○有期雇用職員が減少していると理解したが、共同研究費等が増えているなら維持できるのでは。例えばAI人材のように待遇を高く設定できればリクルートできるのではないか。

→待遇を高く設定することについて、機構の制度上は可能ではある。他方で、待遇が異なることについて、業務内容等を踏まえた合理的な説明ができることが肝要と考える。他の職員との均衡なども含めて丁寧に対応していく。

○研究系と事業系、事業系の各センター間について、横の連携について何か仕組みを設けているか。

→例えばフェノタイプ研究センターの設置においては、各研究系にも予算を配分し横断的な共同研究に貢献してもらおうなど、より融合的な取組みが行われるような仕組みを設けている。

○DDBJ と DBCLS の統合について、外部からはどのように統合されるかイメージがわからないので補足いただきたい。

→データの解析と保存が一つの組織にまとまることで、まずは ROIS 内でゲノム解析の力を強化し、それを求心力として NBDC など国内の他センターも集約しやすい環境を醸成できるものとする。そのような枠組みが、我が国のバイオデータサイエンスの拠点としてゲノム研究の発展に資することになると考えている。

○国際共同研究について、具体的にどのような取組みを行っているか。

→中国の台頭が目覚ましい状況ではあるが、まずは日本国内で一つにまとまったうえで、欧米との連携等により質の高い研究を進めていく。

○学生を含めた若手研究者の育成について、具体的にどのような取組みを行っているか。

→従前よりインターンの受入には注力しているほか、ポスドクの受入も増えてきている。飛躍的な増加は難しいが、インターンとして受け入れた研究者がポスドクとして戻ってくるケースもあり、徐々に浸透していると認識。待遇の改善といった点も含めて引き続き検討していきたい。

(次回の教育研究評議会の日程について)

- ・次回の教育研究評議会は、令和6年3月11日(月) 15:30から開催の予定。

以上

《配付資料》

- ・前回議事要旨
- ・【資料1-1】統計数理研究所における研究系の改組について
- ・【資料1-2】統計数理研究所における研究系の改組の概要
- ・【資料1-3】情報・システム研究機構組織運営規則(新旧対照表)
- ・【資料1-4】情報・システム研究機構組織運営規則(改正案)
- ・【資料2-1】中期目標・中期計画の変更手続き等について

- ・【資料 2－2】様式 5
- ・【資料 2－3】様式 6（機構内とりまとめ）
- ・【資料 2－4】第 4 期中期計画の令和 5 年度進捗状況確認の概要
- ・【資料 3】研究教育職員に係る人事異動等について
- ・【資料 4】JSR 株式会社との共同研究部門設置について（統計数理研究所）